

第550回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和6年6月5日(水) 午前11:00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 6名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
委員長 林 新一郎
副委員長 井上 裕子
委員 浅井 隆彦
委員 加藤 恵美子
委員 中山 潔
委員 南澤 光弥
○欠席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
委員 笹本 正治
委員 武重 正史
○放送事業者側出席者名
外山 衆司 (代表取締役社長)
船木 正也 (常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当)
久保 善一 (取締役 報道制作・企画事業担当)
西條 彰浩 (報道制作局長)
早川 英治 (編成業務局長)
浅輪 清 (編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長)
北澤 輝久 (編成業務局編成部長 兼 視聴者室長)
伊藤 晴彦 (報道制作局次長)

4. 議題

(1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

伝え続ける - 86歳の戦場カメラマン - 』

令和6年5月24日（金）19：00～19：57放送

(2) 視聴者対応報告（令和6年5月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・このタイミングで石川さんにあれだけ密着されたご苦勞に私は心から尊敬した。
- ・ベトナムの枯葉剤の影響が今まだあれだけ続いているということを映像として伝えたということにもものすごく価値があると思っている。
- ・石川さん自身の「自分が語らないでどうする」という言葉がすごく重みがあって、それを実践されているリアルな形を学校だったりとか、沖縄の話だったりとか、いろいろ多角的に映像を入れて紹介されたのが素晴らしいと思った。
- ・石川カメラマンのベトナムでの最前線での取材画像と、そこでの経験。戦争を知る人間として、それを若い人に伝えるというのが、カメラマンとしての人生の集大成だという所に、今回の番組の趣旨に同意する所があった。
- ・石川さんの考え方や意思を丁寧に紹介されていて、課題を提起しつつもそれを受け継ぐ人たちが少しずつ育っているということもよく分かった。
- ・活動が実を結びつつあるということを伝える良い番組だった。
- ・石川さんの食欲に取材しようという仕事に向き合う姿勢自体にも感動した。
- ・見終わった後に改めてこの番組のテーマ「伝え続ける」というのが、まさにその通りだということを感じ、番組から伝わってくる86歳とは思えない精力的な活動や、言葉に本当に圧倒された1時間だった。

- ・過去の体験を石川さんが話すということに留めて、見た人が各々現実に対してどう自分は振る舞っていけばいいのか、これから生きていけばいいのかということを考えさせる番組に仕上げたということでとてもクオリティが高い番組だった。
- ・石川さんの言葉の中で「自分の足で歩き、自分の目で見ると 歩かないと見えない風景がある」に共感を覚えた。
- ・ベトナム戦争以来50年実践されて、それを伝えていくという姿勢を、しっかりとこの番組はポイントを押さえて、リアルな言葉を紡ぎながら進められたという所が良かった。
- ・番組の冒頭でイスラエルのガザ侵攻、石川さんが懸念を語る場面から番組は始まっており、まさに象徴的で、この時期にこの番組が放映されたことに大きな意義があると思う。
- ・番組の始まりに、ガザ侵攻の前日のコメントが生々しく、なんとなくショッキングな入り方のような印象があった。
- ・なかなか今までは公表も避けられがちなベトナムでの実際の映像をたくさん紹介して、これを見た子どもたちの反応や言葉をリアルに映像で表現されているという印象も受けた。
- ・戦争の悲惨さと同時に、コミュニケーションが重要であるといったことも、沖縄の学生たちが、ホーチミンの学生たちとコミュニケーションを取る場面を通じて実感することができた。
- ・石川さんの活動を丹念に追うことで、この番組自体が間接的にメッセージ性を持って、我々見る側に対して戦争は決して起こしてはならないという気持ちを思い起こさせるというような番組だった。
- ・一番衝撃的だったのは、ツーズー病院平和村という所に暮らす枯葉剤の影響を受けた35名の障害者の皆さんの映像。見る側にとって大きなショックを与えたのではないかと思う。

- ・ 86歳の今も歩くことを欠かさず、「歩かないと見えないものがある」と語る活動には、強いプロフェッショナル精神を感じた。
- ・ 画面の右上にテロップを入れることによって、その場面展開が変わることを私たち視聴者に理解させやすいように持っていった工夫があった。
- ・ トピックスが多くて、少しあちこちに話題が飛んでしまったような気がするので、もう少し絞って深掘りしても良かったのではないかという印象を受けた。
- ・ 見ていくうちに、石川さんという人はどういう人なのか、どういう背景があって、このような取材になったのか、もう少し知りたいと感じた。
- ・ なぜ終の住処として諏訪を選ばれて生活しているのか、できれば石川さんの色々経験されてきた心情と、この信州について語ってもらうのが冒頭なり最後にあると、この題材はもっと締まったのではないかと感じる。
- ・ 私たちも含めて大半の若者は戦争を知らないし、戦争のリアリティというものを写真で見て考えたというのがあるが、その後どうなったか、一過性のものだったのか、若い人たちにどれだけ伝わっているかということはちょっと気になった。
- ・ 枯葉剤の影響は、枯葉作戦に従事した米兵にも相当残っている。韓国から派遣された兵隊たちも相当枯葉剤の影響を受けている。枯葉剤はそこまで取材すべきではないのかと思った。

(2) 視聴者対応報告（令和6年5月分）

資料に基づき、令和6年5月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・ 第549回番組審議会（令和6年5月）議事録

・視聴者対応報告資料（令和6年5月分）

・モニターレポート

『 NBS 土曜はこれダネッ! 』

（令和6年4月6日（土）午後6時00分～放送分）

・BPO報告（NO. 264）

・民間放送（第2227号）

以 上